

# 恵みと真理のニュース



2020年02月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## 【証】



### 四度も稽留流産をした後、神様の恵みで産んだ二人の娘がもう大学生になりました。

私は、田舎で生まれ3男5女の中で5番目の娘で生まれ育ちました。故郷の近くの村に教会がありました。伝道する人がいませんでした。私が幼いから親が病気がかかったので、畑に行き農業し、家事も手伝いました。日曜日に畑で農業をする時、教会で鐘が鳴ると教会がどんなところなのかと知りたかったです。

姉たちから助けられてソウルで高校を卒業しました。卒業したちょうど、陸軍少領として軍に在職していたおじさんが突然、亡くなり、教会の主管で葬式を行いました。ところが、葬式を行う間、三日間何度も礼拝をしたので、歌った賛美歌の歌詞が葬式が終わっても私の頭に残っていました。これを不思議に思った私に教会に通っていた三番目の姉が話しました。“神様があなたを呼んでいるようだね。感謝だね。”としました。その話をその時には理解できませんでした。職場に勤務しながら放送通信大学で勉強をしている中で知り合いの人から紹介された男と結婚しました。父親が急に癌にかかって闘病中、ついに亡くなりました。病中で父の最後を守りながら、私は父親のためすることがないから悲しくて悔しかったです。弱り目に祟り目で私が妊娠しましたが、赤ちゃんが育たずに、結局稽留流産をして敗血症を防ぐ手術を受けました。このような稽留流産を二度も経験してソウルからアンヤンで引っ越しました。

私が病院に行くたびに、片足が不慣れある人が、恵と真理ニュースを渡しなが、ぜひ読んでくださいとしました。しかし、私は恵みと真理ニュースを読まずに以前、通っていた職場の後輩に代わりに渡しました。その後輩も稽留流産をしたから、先に職場を辞めました。私も3度目の稽留流産をしたので職場を辞めて家で休養をました。

そうするうちにある日、その職場の後輩が訪ねて来て奇跡のような話をしてくれました。後輩が再び妊娠したが病院でまた、稽留流産の診断を受けたから、手術日まで決めた状況なので大きく落胆しているとき、ちょうど伝道しに来られた恵みと真理教会の首区域長が後輩の事情の話を聞いて、後輩に教会に来て決信をして当会長の牧師から祈り受けなさいと積極的に勧めたそうです。首区域長が話した通りに水曜礼拝に参席した後、牧師の祈りを受けて教会から出る瞬間、体に異常があると感じ赤ちゃんの心臓がときめいている確信

をしたそうです。それで、病院に行き、再検査を要請して、手術を準備した医師が仕方なく検診した結果、子供の心臓がときめいていると言われました。そのような信じられない話をしてくれて、一緒に教会に行こうと誘いました。

恵と真理教会の礼拝で初めて参席して恵みある説教を聞き新信者の決信と紹介する時間に話をするとき、恥ずかしくて頭を上げられなかったです。3年間、何をしていたのか、なぜ、今になって教会に来たのか残念ながら、一方これから教会に来たことも感謝し感激しました。妊娠したい心がとても切実で姑が言う通り、御子を呼んで祭祀したことが思い出しました。巫女が命令する通り拝みたくなかったで、頭を上げたまま防いでいました。以前、3番目の姉が、“神様があなたをよんでいるようだね。かんしゃだよ。”という話が思い浮かんで、悔い改める祈りと、喜びの涙を流しました。

職場の後輩が聖書も買って来て、まず、旧約聖書のサムエル記を読めると勧められ、ハンナに関する話をしてくれました。その日に家に帰ってすぐ、聖書を開いて御言葉を読んで、熱心に使徒信条と主の祈りを覚えしました。命を与える方も神様が主管なさるので私はいつも“讚美歌455章” “主の中での私に”を歌いました。夫の密かに水曜日の礼拝を捧げて御言葉の恵みを受すようになり、主日の礼拝も捧げるようになりました。旦那には朝早く銅山しに行くと言いつつ朝8時の礼拝を捧げましたが、言葉で表現できないほど喜びと感謝を感じました。区域礼拝と祈り会にも熱心に参席しました。区域と教区で私のために祈ってくださって、礼拝生活もよくするように助けてくださる方々が多くてもっと感謝でした。家を借りて住んでいましたが、雨がたくさん降ると雨が漏れるから、新しい家に引っ越しするのが一番願っていたので神様に祈ったら神様が助けてくださって、シフオン市の新都市のマンションに引っ越しました。

新しいマンションに引っ越しをする準備をするうちにまた、稽留流産をしました。すると夫はもうやめて子供を養子を迎えようと言いました。ところが、私は6か月もつと神様に祈ってから、その後も妊娠できなかった夫の意見に従うとしました。“私を呼べ。私はあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。(エレミヤ書 33:3)という御言葉と”恐れるな、私とあなたと共にいる。／たじろぐな、私があなたの神である。／私はあなたを奮い立たせ、助け／私の勝利の右手で支える。”という御言葉を握んで求めて神様を仰ぎました。金曜日の祈り会に当会長の牧師が説教しに来られた時は必ず祈ってくださいました。

直接に車を運転したくて運転を習って免許を取得してから、まもなく、切に願っていた妊娠をしました。

何度も流産を経験したから喜ぶばかりではなかったです。病院で流産を防ぐ注射を受けて本当に気を付けて神様が守ってくださいと祈りました。出産予定日が近づいてくると病院では手術を勧めましたが、私は神様を委ねて自然分娩をしようと思いました。陣痛が来て病院で入院しましたが、分娩課程があまりよくなかったです。分娩が遅れて医師まで心配しているその夜、“主の十字架の血に能力がある。”讚美歌202章を続けて歌い神様を賛美しました。そして、その次の日無事に赤ちゃんを出産しました。ハレルヤ！結婚して7年目に神様の恵みで娘を産んで本当にうれしくて、このすべての世界を得たようでした。それだけでなく、妊娠できないと医師から言われたけど、その話が無意味になり、長女が生まれて一年の後に二番目の娘を妊娠して健康な二番目の娘を出産しました。

夫の救いを求めながら祈りをする中で、収穫感謝節の行事で7歳になった娘が先生と共に司会をしているとき、予告なしに夫が教会に来ました。いくら喜んで感謝でした。その後、姑が亡くなり、舅もイエス様を受け入れて信仰生活をしながら天国に行かれました。脳梗塞で苦労した母もイエス様を受け入れて、臨終の時、私と家族が天国で会おうと祈る時に、天国希望を持って、平安な顔で深く眠りました。夫の急な事故にあい、私が職場に行く前10年から私は礼拝中心で生活しながら聖書大学と区域長大学など平信徒教育課程を忠実に受けました。そうして、御言葉と聖霊で満たされ、職場生活をしながら相変わらず礼拝と奉仕に力を尽くすことが出来ました。

小学校3年生から、教会学校でピアノ伴奏者として奉仕した長女が今年願っていた大学に合格して自分が希望したことを成し遂げました。二番目の娘も神様の恵みで希望した学科で進学しました。摂理してくださった神様に感謝します。住んでいた家が高層で生活するとき不便なところが多かったです。それで、低層で広い家に引っ越しする希望を持って祈りながら努力したら、神様が助けてくださり、希望が現実になるようにしてくださいました。“神の恵みによって、今の私があるのです。そして、私に与えられた神の恵みは無駄にならず、私は他の使徒たちの誰よりも多く働きました。しかし、働いたのは、私ではなく、私と共にある神の恵みなのです。(コリント信徒への手紙15:10)すべてが神様の恵みです。

私たちの婚家と実家すべてが福音化され主をまことに信じ仕え、二人の娘が学校寮で暮らしながら主と共に相変わらず、信仰生活をして、夫の 堅固な信仰になり主の事に尊く用いられるのを願い、神様の助けと導きを求めます。私も区域長と教師の職分をよく担って主の喜びになる生活をする事を決心しながら、父なる神様に栄光を捧げます。



## 【信仰コラム】

### 福音を述べ伝えさせる聖霊様

“...ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう...” (使徒言行録 1:4~9)

この世を責められる聖霊様、イエスキリストを信じる者を生まれ変わらせる聖霊様、教えて悟らせる聖霊様に続いて、福音を述べ伝えさせる聖霊様に関して調べてみましょう。

第一、聖霊様は福音が全世界の造られた全ての者に述べ伝えられるようになさいます。

誰でもイエスキリストを信じて迎撃すると罪の許しを受けてとこしえの命を得た上、神様の子になり天国に行きます。この世で人々が聞くことができる消息の中でこれより喜ばしい消息、福の消息はありません。福音を聞かないと信じるのができないのが自明な理です。従って、福音を述べ伝える人の役割がとても重大です。しかし、福音を述べ伝えるのは聖霊様が主導なさいます。聖霊様は伝道者に熱心と勇気を与え権能を与えてくださいます。救いの福音が広く述べ伝えられるように働かれます。

このために聖霊様の主導の下で教会が設立され、活発に福音を伝えています。イエス様の昇天と再臨の間の

過渡期的な期間は福音が広く伝播される宣教の期間です。新約聖書の使徒言行録には聖霊の降臨で教会が誕生し、福音が広く述べ伝えられる過程が記録されています。聖霊を受けた聖徒達は福音を伝播するのが生活の最も重要な目標になりました。使徒だけではなく、全ての聖徒が積極的に、活発に福音を述べ伝えました。使徒達は自分の任務を終えてこの世を離れたが、聖霊様は依然として神様の選ばれた民を救うために働いておられます。そうして今も福音は全世界の造られた全ての者に述べ伝えられています。

第二、聖霊様は聖徒達に権能を与えてくださり福音を述べ伝えるようになさいます。

キリストの証人としての任務を遂行するには聖霊様がくださる権能があるべきです。その理由は人々が福音を理解して受け入れるようになるのは容易くありません。人間の力では可能なことではありません。福音は信仰が生じないと全く理解できない話です。福音を聞いて信じるようになるのは聖霊の権能だけで可能です。従って、伝道者は聖霊の権能に被って福音を伝播しなければなりません。そして福音を述べ伝える時、聖霊の権能でしるしが現れると頑固な人々や敵対感を持った人々の心が開かれます。“ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう”という御言葉通りに福音を伝える者は聖霊の権能を求めて頼るべきです。

第三、聖霊様はイエス様の御言葉とイエス様が叶えられたことを人々に知らせてイエス様の光栄を表わせます。

聖霊様はイエス様のことだけで言われます。そしてイエス様のことは父なる神様にあることです。福音を伝えるという者がイエス様の言われた御言葉と異なって話すと彼は聖霊様がなさる事とは関連のないことをするのです。聖霊様はイエス様の誕生と生涯と死と復活を通じて叶えられた救いの恵みを知らせることをなさいます。従って、イエスキリストが叶えられたこと以外に人間の思想と哲学と宗教を加えて伝える者は自ら自分が聖霊様と関係ないという事実を示すのです。聖霊様は福音の伝播を通じてイエス様の光栄を表わせます。従って伝道者が自分を誇示して自分の光栄を表わせようとしたら彼は聖霊様に逆らっているのです。福音を述べ伝えるために集まって、お祈りして、奉仕する所に聖霊様が臨み、権能を注いでくださいます。福音伝播のために奉仕する全ての者を神様が喜ばれます。福音を伝えるために捧げて奉仕することは聖徒達ができる事で、聖徒達に与えられた光栄のある特権です。

福音を伝える者には聖霊様が共におられてくださいます。皆さんは一生を聖霊の充滿の中で福音の伝播のために使われる働き者になるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

## 聖書的な万事がうまくいくこと



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“万事が意のようによく行くことを願います。”という言葉は簡略で豊かな意味を持っており、一番、多く使われている祝福の言葉の中で一つです。すべてが自分の願ったの通りになることを願はない人はいないです。しかし、誰でも生きながら自分が願う通りにうまくいかないことを経験するようになります。このことによって落胆して挫折し、恨み、不平をします。神様を仕える人はそうしてはいけません。聖徒は聖書的な万事がうまくいくことについて正しい理解と信仰を持つべきです。イスラエル民はエジプトで解放されてカナアンに行く過程で、彼らが予想していたこととは違って、全く違う現実に直面すると、恨み不平をしました。挫折して落胆して、さらにエジプトに戻ろうとしました。聖書にはアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフその外にも、数多くの人々が、自分が予想して願ったことが、思い通りできなかった場合にどんな対象と反応について記録されています。このような記録を詳しく調べてみると、私たちは聖書が話す“万事がうまく行くこと。”という真の意味を知ることが出来ます。

**第一は、生活しながら経験する、様々なことが自分の願い通り、期待とおりになる場合がある反面、その反対になる場合があっても結末には有益で善になることが聖書的です。**

イスラエルの民族の族長達の中でアブラハムとヨセフの例を上げます。

**まず、アブラハムの生涯の記録を調べてみます。**

アブラハムは、神様の命令に従順して慣れていた故郷を離れて、カナアン地に居住しました。カナアンで飢饉にあったから、彼はエジプトに下りて行きました。ところが、妻のサライがあまりにも美人でエジプトの人々が自分を殺そうとして、自分の妻を奪い取るような恐れてしまいました。そうして、アブラハムは、サライに自分の妹だと話すようにさせました。彼がたてた方策でサライが、エジプトの宮に呼ばれるようになってしまいました。神様がその事件に素早く関与しなかったならば、妻をパラオに奪われたかもしれませんでした。アブラハムはエジプトで再びカナアンに戻ってきました。サライの歳が多くなり、自分の体の状態をよく知って、サライの召使い、ハガルを通して後孫を産むようにアブラハムに勧めて、息子、イシュマエルが生まれました。しかし、アブラハムが100歳になった時にサライが息子、イサクを生みました。アブラハムは家庭の不和でハガルとイシュマエルを送り出すしかなかったです。イサクが青少年になった時に神様が、アブラハムを呼んで、イサクをいけにえとして捧げようと命令なさいました。

アブラハムは従順してイサクを連れて三日間、神様が指示なさった山に登りました。そこで、祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。アブラハムは手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとしました。すると、天から主の使いが呼びかけ、「アブラハム、アブラハム」と言いました。彼が、「はい、ここにおります」と答えると、その子に手を下してはならない。何もしてはならない。神様が言われました。神様は一匹の雄羊を準備してくださいだったので、イサクの代わりに、いけにえで捧げてアブラハムは神様から褒められました。アブラハムの生涯で私たちが二つの大きい教訓を得られます。アブラハムはどんな場合でも神様に恨みと不平をしなかったし、挫折したり落胆しなかったことです。さらに、アブラハムはどんなことがあっても、結末には有益で善になった事実です。

**次は、ヨセフの生涯の記録を調べてみましょう。**

ヨセフはヤコブの12人の息子の中で11番目の息子です。ヤコブはヨセフを特別に愛して、ヨセフは兄弟たちから憎まれました。父のお使いでヨセフは羊を飼う兄たちがいるセエムに行きました。兄たちはヨセフをエジプトで下っていく隊商に売りました。ヨセフはエジプトのファラオの廷臣、侍従長ポティバルの家に売られました。ポティバルはヨセフを家庭のすべてを管理する責任者として任務を任せました。しかし、ヨセフはポティバルの妻の策略で苦境に陥れました。それで監獄に入れられました。ある日、監獄に献酌官長と料理官長が監獄にいる時に夢をみましたが、その二人の夢を神様が与えてくださった能力で二人の夢を解き明かしてくれました。ヨセフは献酌官長にあなたが元の位置に戻したら、私を思い出してくださいと願いました。ヨセフが話したように献酌官長は復職されましたが、約束は守らなかったです。その後、2年経って、ある日、エジプトの王が夢をみましたが、その夢を解き明かすできる人を探しましたがいなかったです。献酌官長はその話を聞いて、王にヨセフのことを話しました。その話を聞いた王はヨセフを呼び寄せて夢見た内容を話したら、ヨセフが明確に解き明かしてくれました。王の心にかかったヨセフをエジプトの総理として任命しました。ヨセフは王の夢を解き明かした。その内容をもとに7年間の方策の年のあらゆる食糧をすべて集めさせ蓄えさせました。7年が終わると、厳しい飢饉が始まりました。しかし、エジプトには食料が豊かであることを知った、隣の国の人々が食料を買いにエジプトに来ました。カナアンに居住するヤコブも息子達にエジプトに行って食糧を買って来いとさせました。兄たちを見たヨセフは結局、自分がヨセフである事を明らかにさせました。そして、父であるヤコブとその子孫達をすべてエジプトに招待してエジプトの王が彼らのため与えた地で居住しました。ヨセフの生涯で私たちが、二つ持っている大きい教訓を得られます。ヨセフはどんな場合でも、神様に恨んだり、不平を言ったり、挫折と落胆をしなかったです。そして、ヨセフがどんなことであっても結末には有益で善になる事実です。

**二番目は神様の御言葉の通り信じて行うことが、聖書的な万事がうまくいくことです。神様の御言葉の通り、信じて行う人には神様が共におられ、助けてくださるからです。**

万事がうまく行くようになる理由が聖書に記録されています。”主人は、主が彼と共におられ、彼のなすことすべてにおいて事を順調に運ばせているのを見た。”（創世記 39：2、3）“牢獄長は、ヨセフの手に任せたことには何ら目を配る必要がなかった。主がヨセフと共におられたからである。主は、彼のなす事が順調に運ぶようにされた。”（創世記 39：23）神様が共におられたから、このことが核心です。どのようにすれば神様が共におられる人になれますか？その答えは簡単です。神様の御言葉を信じて従順するなら、神様が共にしてください。

モーセの後継者になったヨシュアに神様が次のように頼みました。”あなたはただ、大いに強く、雄々しくありなさい。私の僕モーセがあなたに命じた律法をすべて守り行い、そこから右にも左にもそれてはならない。そうすれば、あなたはどこに行っても成功を収める。この律法の書を口から離さず、昼も夜もこれを唱え、書かれているすべてのことを守り行いなさい。そうすれば、あなたは行く先々で栄え、成功を収める。強く、雄々しくあれと、私はあなたに命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行っても、あなたの神、主があなたと共にいるからだ。”（ヨシュア記 1：7～9）神様の御言葉を全部守って行うことと神様が共におられることは分離することはできません。

今日は本分に記録されています。”死期が近づいたとき、ダビデは息子ソロモンにこう言い残した。「私は、この世のすべての者がたどる道を行こうとしている。だが、あなたは強く、雄々しくありなさい。あなたの神、主への務めを守ってその道を歩み、モーセの律法に記されているとおりに、主の掟と戒め、法と定めを守りなさい。そうすれば、何をしても、どこに行っても成功するだろう。”

法律、戒め、証拠、律法とはすべてが神様を示す多様な用語です。このように聖書の節、を強調する表現方式です。ダビデが頼んだ言葉を要約したら、ソロモンが神様の御言葉通りに誠実に言うことと何をしてもどこに行っても万時がうまく行くことになるという意味です。永遠で真実な神様は、神様の御言葉の通りに行う人と共にしてください。神様が共におられるなら助けを与えるからです。

悪で不義を行い、嘘ついた人がする万時がうまくいくように見えるなら、箴言 23章 17、18節を思い出してください。”心で罪人を妬むことなどせず／日夜、主を畏れよ。そうすれば、未来もあり／希望が絶たれることもない。”悪で不義を行う者たちが、繁栄しても彼らの行為を回様が認めることで誤解してはいけません。すべての結末が善くなり永遠な希望があるべきです。

聖書的な“万事がうまくいく”とは苦難が全くないことを意味することではないです。どんなことがあっても最後には有益になることを意味します。不便な事と苦痛を経験することがあっても、神様の慰めと能力でこのことを勝つようにしてください。患難と苦難が最後には、福と栄光になるようにしてください。生活しながら経験することが自分の思い通りに期待した通りになる場合がある反面、その反対になる場合があるとしても結末は有益で善になることが聖書的です。神様の御言葉通りに信じて行うことが聖書的であります。また、神様の御言葉に信じて行う人には神様が共にして助けてくださるからです。皆さんは聖書的な“万事がうまくいく。”ことを愛し求めるのを願います。